



2025 年 12 月 1 日

各 位

会 社 名 オ カ モ ト 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長執行役員 岡 本 邦 彦
(コード番号：5122 東証プライム)
問合せ先 取締役常務執行役員 田 中 祐 司
(TEL 03-3817-4121)

2026 年 3 月期中間決算に関する質疑応答及び決算説明資料について

当社が 2025 年 11 月 28 日（金）に開催いたしました 2026 年 3 月期中間決算説明会での質疑応答の要旨は以下のとおりです。

※当日の説明者：取締役常務執行役員田中祐司・執行役員細谷久雄

※本資料の記載の内容は決算説明会での質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、ご理解いただきやすいように一部加筆修正をしております。あらかじめご了承ください。

Q. コンドームで一部得意先の在庫調整があったということだが、具体的に教えて欲しい。

A. 得意先とは情報交換を密に行っているが、得意先の中で国内販売と海外販売のバランスの見極めが難しいことから、足元で一旦弊社からの出荷が減少したところがあった。一過性のものだと認識している。

Q. 手袋について、足元の需要動向と今後の見通しについて教えて欲しい。

A. コロナ禍後に廉価品の流入が非常に多くなり弊社においても困難を伴う時期があったが、廉価品の流入も落ち着きが出ている。また一言で手袋といっても様々な市場がありお客様のニーズや動向もそれぞれ異なっている。我々もそれぞれの市場特性を踏まえた対応を行っていく。特に、好調な半導体工場向けの販売に注力している。

Q. 原材料の高騰について、一時的とみているか、継続的とみているか。また、価格の補正はできているのか。

A. 影響が大きいアンチモンでは、中国のレアアース規制の影響で、この 2024 年、2025 年で一気に 5 倍になっている。2010 年代と比較すると 10 倍近い。現状は中国以外のアジア圏からの購入を進めて安定供給に努めているがどうしても割高にならざるを得ない。高騰に対しては、大きく以下 3 点の対策を行っている。

1. 適正な価格に転嫁できる枠組みがある取引に対してはその対応を進めているが 1 年以上の期間が必要な場合がある。これだけの急騰に対応するためには、1 年を待たずに価格差補填を受ける検討をいただけないか交渉している。

2. 転嫁の枠組みが無い取引に対しては、弊社としては供給責任を全うすることを前提として、適正価格まで負担は応分していただけるよう交渉している。

3. アンチモンを使わずに同じ性能を出せるよう、研究開発を進めている。既にメーカーには提案を始めており一部は応諾いただいている。長期間の品質確保を慎重に見極めたいとのことで、消極的なメーカーもある。

以 上



オカモト株式会社 決算説明

2025年11月28日(金)

目 次

- 1 : 2026年3月期 2Q決算概要
- 2 : セグメント別概況
- 3 : 今後の見通し
- 4 : 株主還元
- 5 : 質疑応答

- 1：2026年3月期 2Q決算概要
- 2：セグメント別概況
- 3：今後の見通し
- 4：株主還元
- 5：質疑応答



決算ハイライト

- ・2026年3月期2Q 連結業績(累計)
売上高528億円(前年比▲2.9%)、営業利益25億円(前年比▲49.1%)、
経常利益33億円(前年比▲32.5%)、当期利益19億円(前年比▲34.8%)
- ・2026年3月期2Q 連結業績予想と実績値との差異(累計)
売上高 +8億円(+1.7%)、営業利益 +5億円(+25.2%)、
経常利益 +10億円(+47.1%)、当期利益 +8億円(+76.7%)



決算ハイライト

- ・フィルム事業全般(農業資材含む)が前年対比でほぼ堅調に推移
- ・為替の円高による影響(前年度対比1ドル当たり約8円分)
- ・車輜資材及びコンドームにおいて、国内外で売上減
- ・原材料価格の高騰継続(特に難燃剤のアンチモン)及び中国経済の停滞
- ・自己株式取得
(終了)取得株数280,000株、取得金額14億円、発行済み株式総数の1.6%
(新規)上限株数190,000株、上限金額10億円、発行済み株式総数の1.1%
の取得枠設定を2025年11月7日発表

業績の概要



単位：百万円	2025年 3 月期 2 Q	2026年 3 月期 2 Q	前年同期 比	%	対中間期業 績予想差異	%
売上高	54,489	52,899	△1,590	△2.9	+899	+1.7
売上原価	42,068	42,755	687	1.6	-	-
売上総利益	12,421	10,144	△2,277	△18.3	-	-
販売費及び一般管理費	7,502	7,640	138	1.9	-	-
営業利益	4,919	2,503	△2,416	△49.1	+503	+25.2
営業外損益	95	881	785	819.0	-	-
経常利益	5,015	3,384	△1,630	△32.5	+1,084	+47.1

○販売費及び一般管理費⇒主に運賃及び荷造費198百万円減少、広告宣伝費25百万円及び減価償却費250百万円増加

○営業外収益⇒「受取配当金」107百万円増加

○営業外費用⇒「為替差損」555百万円減少、「公開買付費用」122百万円減少

業績の概要



単位：百万円	2025年3月期 2 Q	2026年3月期 2 Q	前年同期比	%
特別損益	△646	△444	202	△31.2
税金等調整前当期利益	4,368	2,939	△1,428	△32.7
税金費用	1,410	981	△428	△30.4
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,980	1,943	△1,036	△34.8
平均為替レート（ドル）	154.07円	146.09円	△8.0円	△5.2

○特別利益⇒「投資有価証券売却益」109百万円減少

○特別損失⇒「減損損失」168百万円減少、「投資有価証券売却損」189百万円減少

○税金費用⇒「法人税等合計」429百万円減少（オカモト課税所得減少のため）

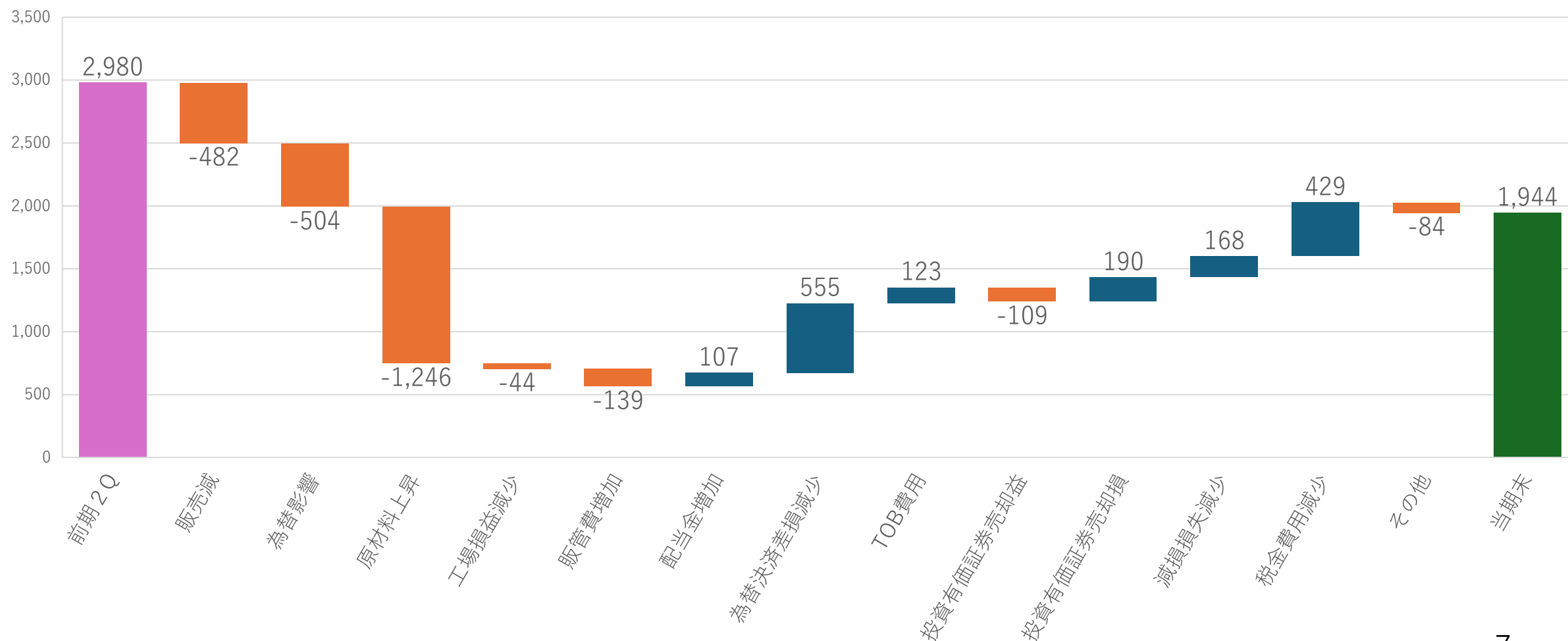
前年同期との比較



利益増減要因別分析

当期純利益の前年同期比増減、
△1,036百万円の内訳

■ 増加 ■ 減少 ■ 合計



連結貸借対照表(概要)

単位：百万円	2025年3月31日	2025年9月30日	増減
<資産の部>			
流動資産合計	89,348	83,592	△5,756
有形固定資産	21,818	21,802	△16
無形固定資産	2,569	2,421	△147
投資その他の資産	32,397	43,335	10,937
固定資産合計	56,785	67,559	10,773
資産合計	146,134	151,151	5,017

- 流動資産⇒現金及び預金4,249百万円減少、受取手形350百万円減少、電子記録債権115百万円減少、たな卸資産全体292百万円減少、その他737百万円減少。
- 固定資産⇒投資有価証券11,807百万円増加（主に株価上昇による）、長期性預金800百万円減少

連結貸借対照表(概要)

単位：百万円	2025年3月31日	2025年9月30日	増減
<負債の部>			
流動負債合計	36,945	34,632	△2,312
固定負債合計	14,724	17,722	2,998
負債合計	51,669	52,355	685

○流動負債⇒支払手形及び買掛金1,784百万円減少、電子記録債務702百万円増加、
未払法人税1,144百万円減少、その他44百万円減少

○固定負債⇒繰延税金負債3,083百万円増加

連結貸借対照表(概要)

単位：百万円	2025年3月31日	2025年9月30日	増減
<純資産の部>			
株主資本合計	70,519	70,188	△331
その他の包括利益累計額合計	23,837	28,506	4,669
非支配株主持分	107	101	△6
純資産合計	94,464	98,796	4,332
負債純資産合計	146,134	151,151	5,017
自己資本比率	64.6%	65.3%	0.7%

○その他の包括利益累計額合計

⇒ 其他有価証券評価差額金6,223百万円増加、為替換算調整勘定1,476百万円減少

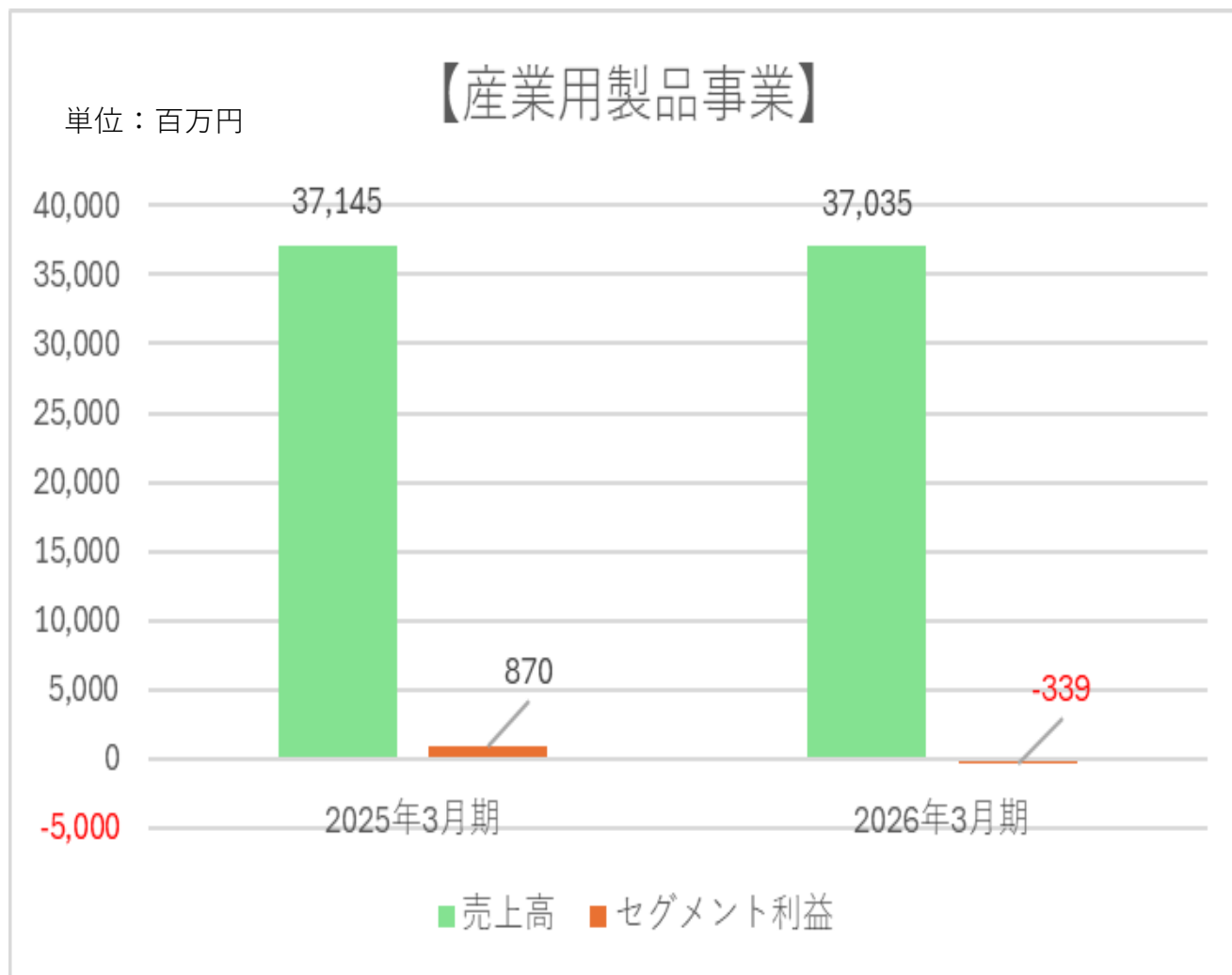
財務指標

	2025年3月期 4Q	2026年3月期 2Q
EPS(1株当たり純利益)	383.35円	112.83円
PBR(株価純資産倍率)	0.9倍	0.9倍
ROE(自己資本当期純利益率)	7.3%	※ 4.0%
ROA (総資産利益率)	6.7%	※ 4.6%
PER(株価収益率)	13.2倍	※ 22.5倍
(参考)		
オカモト株価期末終値	5,060円	5,050円
日経平均株価期末終値	35,617円	44,932円

※は年率に換算

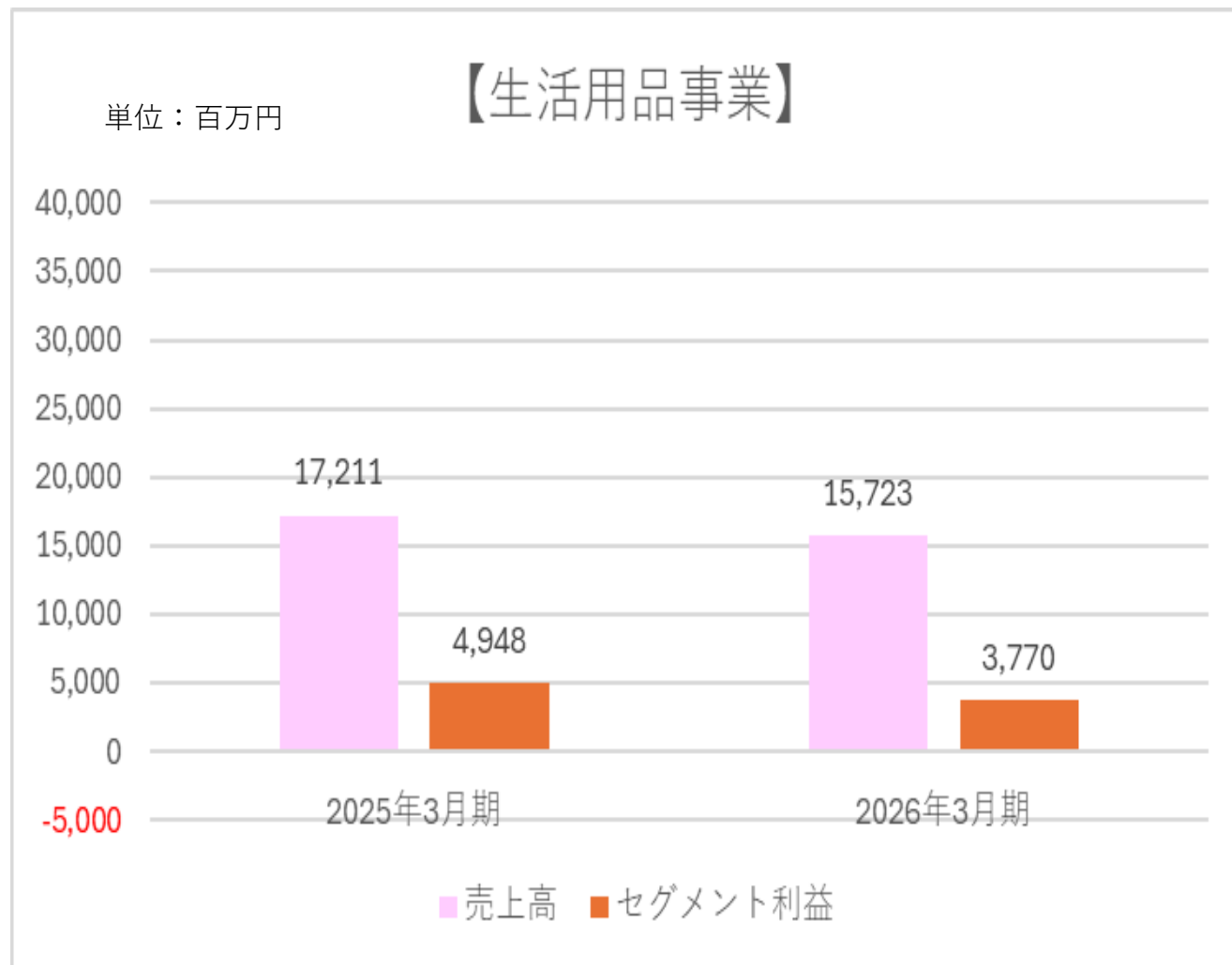
- 1：2026年3月期 2Q決算概要
- 2：セグメント別概況**
- 3：今後の見通し
- 4：株主還元
- 5：質疑応答

セグメント別(事業)売上高・利益の推移



- 売上高（前年比0.3%減）
 - ⇒ 自動車内装材は円高(前年同期間比)によるマイナス影響及び北米市場での減少
 - ⇒ ラップは新規販売先獲得による増加
- セグメント利益（損失）（前年870百万円の利益）
 - ⇒ 主として自動車内装材は原材料高（アンチモン）の影響による減少
 - ⇒ 壁紙は価格改定による増加

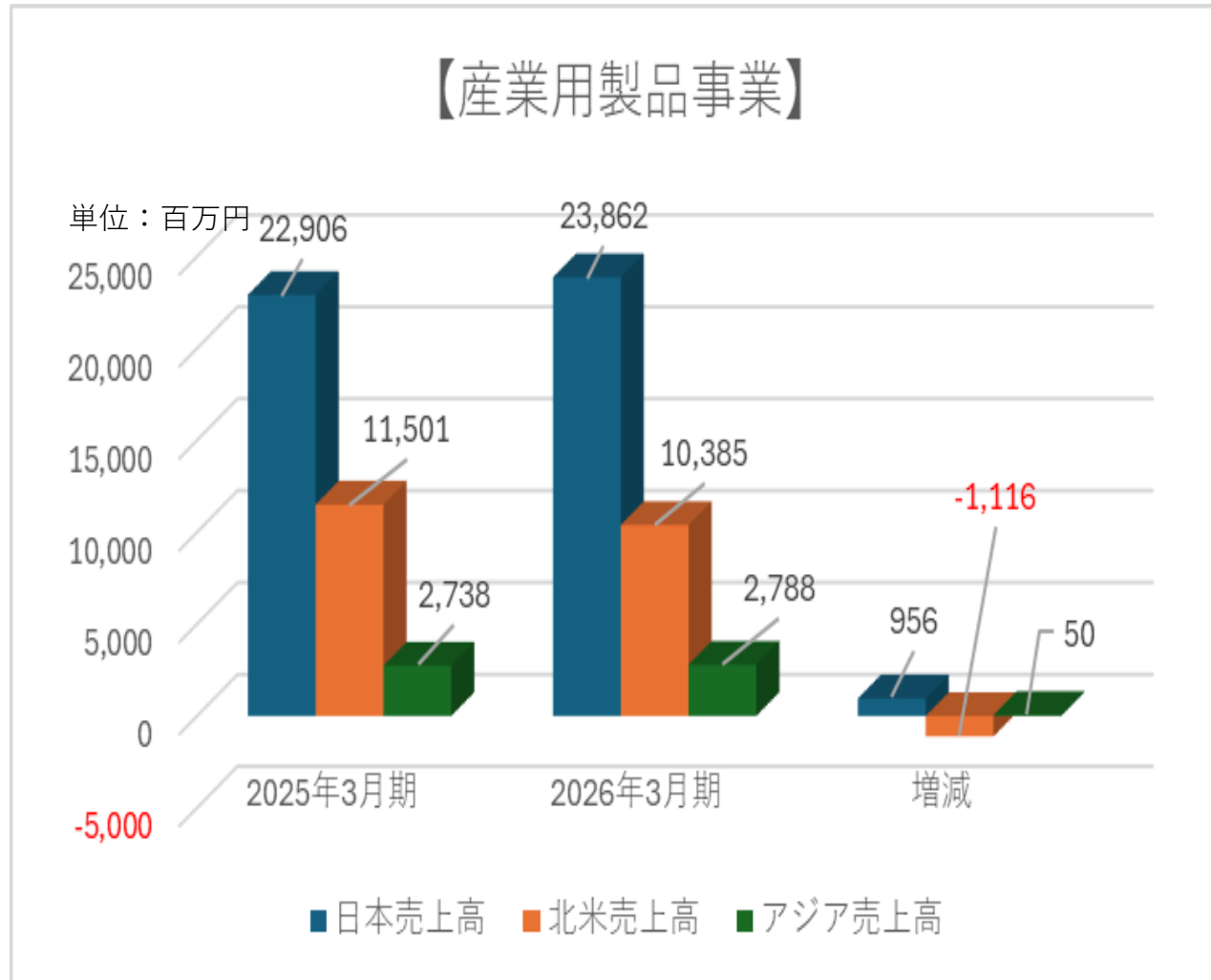
セグメント別(事業)売上高・利益の推移



■ 売上高（前年比 8.6 % 減）
⇒ コンドームは円高(前年同期間比)による
マイナス影響及び中国市場での減少

■ セグメント利益（前年比 23.8 % 減）
⇒ 上記及び販売費増加による利益減少

事業別・地域別売上高



国内売上高（前年比4.2%増）

- ◆ 農業資材にて価格改定前の前倒需要による増加
- ◆ 壁紙は住宅着工件数の低迷にて減少
- ◆ 研磨布紙等は堅調に推移、O A 向けで減少

北米売上高（前年比9.7%減）

- ◆ 自動車内装材はモデルチェンジ遅延にて減少

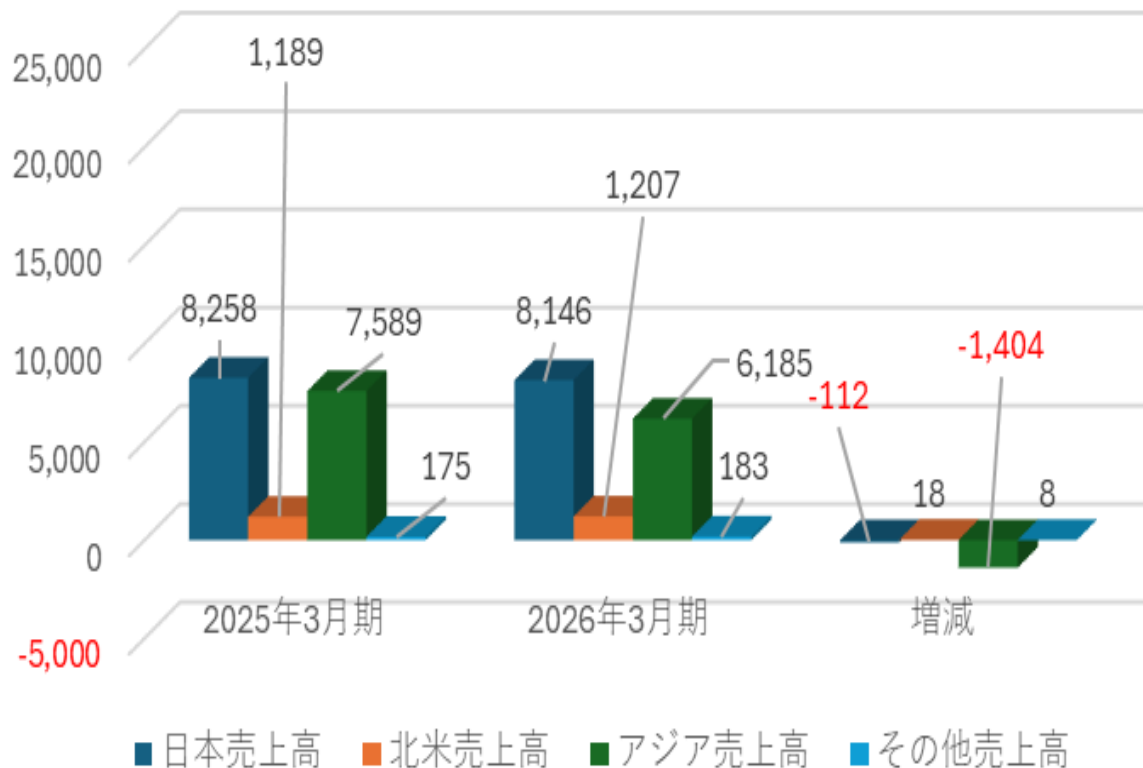
アジア売上高（前年比1.8%増）

- ◆ 自動車内装材は中国での日系自動車メーカーの減産影響被るも当社採用車種のみ微増

事業別・地域別売上高

【生活用品事業】

単位：百万円



国内売上高（前年比 1.4 %減）

- ◆コンドームは取引先在庫調整により減少
- ◆除湿剤が降水量少なくて減少

北米売上高（1.5 %増）

- ◆コンドームは微増

アジア売上高（18.5 %減）

- ◆コンドームは中国景気低迷影響により減少

- 1 : 2026年3月期 2Q決算概要
- 2 : セグメント別概況
- 3 : 今後の見通し**
- 4 : 株主還元
- 5 : 質疑応答

業績予想

単位：百万円	期末業績予想	前連結会計年度	前期差	増減率(%)
売上高	109,000	109,107	△107	△0.1
営業利益	5,700	8,701	△3,001	△34.5
経常利益	7,000	9,764	△2,764	△28.3
親会社に帰属する 当期純利益	4,300	6,674	△2,374	△35.6

営業利益減少：原材料価格の高止まり、営業費用増加

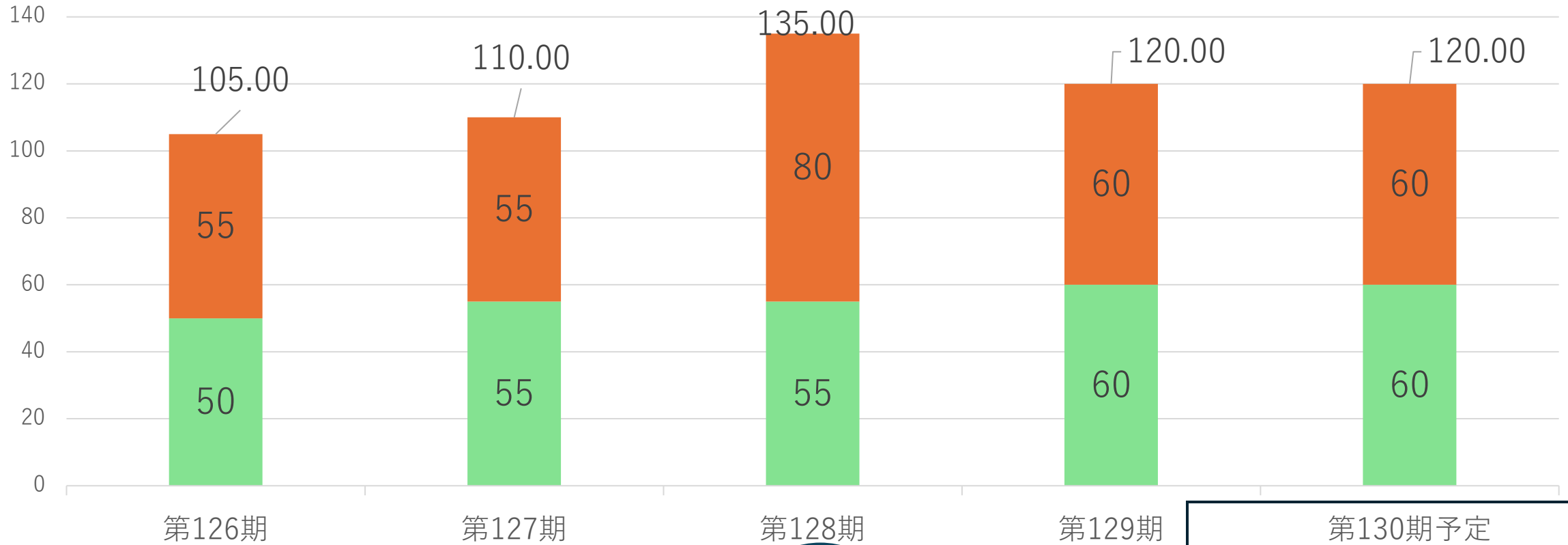
経常利益：上記に加え、為替差損の増加

※従来の業績予想からの修正なし

(原材料価格の高止まり、中国経済の停滞、米国関税政策の影響と為替相場の不透明感を勘案)

- 1 : 2026年3月期 2Q決算概要
- 2 : セグメント別概況
- 3 : 今後の見通し
- 4 : 株主還元**
- 5 : 質疑応答

単位：円	第129期	第130期 (予想)	前期比
配当金	120円	120円	0円



創立90周年記念配
25円含む

第130期予定
◎通期で純利益減を見込むも、配当は維持（配当性向増加）
◎自社株式取得プログラム設定継続

- 1 : 2026年3月期 2Q決算概要
- 2 : セグメント別概況
- 3 : 今後の見通し
- 4 : 株主還元
- 5 : 質疑応答**

質疑応答

(ご参考) アンチモン輸入CIF価格推移

